

中央労働災害防止協会創立 50 周年 第 73 回全国産業安全衛生大会 ビデオメッセージ(2014年10月 広島)

国際労働機関 (ILO) (スイス ジュネーブ)
ガイ・ライダー事務局長

中央労働災害防止協会翻訳

ご臨席の皆様、中央労働災害防止協会職員の方々

中央労働災害防止協会（中災防）の創立 50 周年と第 73 回全国産業安全衛生大会の開催に当たりまして、ここにご参加された、労働者、使用者と労働安全衛生関係者の方々、皆様方にお祝いを申し上げます。

また、この場をお借りしまして、今年 8 月に広島で発生した土砂崩れで被災された方々に心よりお見舞いの言葉を申し上げたいと存じます。私どもは、このような災害を乗り越える貴国の回復力や、さらには、復興の歩みに加え、世界経済、技術、民主主義の発展に対する多大なる貢献を引き続きなされていることも、再び目にしています。このことは、大変素晴らしい精神に基づき行われており、私は、広島の人々がすぐに立ち直ると同時に、さらに力強くなって復興されるものと確信しています。

中災防は、その設立により、政府、労働者団体と使用者団体に対し、企業における体系的な労働災害防止活動を一層促し、また、多くの労働安全衛生に関する人材を育成してきました。中災防の労働者と使用者に対する積極的な支援については、実に賞賛に値します。このような関係者の連携は、持続的な労働災害防止文化を育むのに不可欠であって、ILO の労働安全衛生活動の核心となっています。

この数十年、ILO は、国際労働安全衛生基準の確立と推進を行う世界的なリーダーを務めてきており、労働安全衛生関係の国際条約については 40 を超えています。これらの国際条約は、労働者を保護し、業務上の事故や疾病を防ぐことを目的として、ILO の重要課題である「ディーセント・ワーク」（注：働きがいのある人間らしい仕事）の礎となっています。

世界的規模では確かに発展というものはみられるものの、全ての人々にとって安全で健康的な職場を確かなものとするためには、今なお長い道のりがあります。この 8 月、世界で最大の労働安全衛生に関するイベントである第 20 回世界労働安全衛生会議の開催地のドイツ・フランクフルトに、世界の 141 の国々から、労働安全衛生関係者、政策立案者、学識経験者と科学者が集まりました。そこで、私は、世界中で、戦争よりも労働の場で多くの犠牲者が発生していることを思い起こしました。毎年、おおよそ 230 万人の労働者が、労働関連の負傷と職業性疾病により死亡しています。

それは、15 秒毎に、1人の労働者が労働関連の負傷や疾病により命を落としていることを意味し、また、同じく 15 秒毎に、160 人の労働者が労働関連災害により傷ついています。

皆様方、これらは目の覚めるような厳しい統計数字であり、これにより、私たち皆が安全で健康的な職場を実現するという努力を一段と強めなければなりません。そのための挑戦は大変ですが、労働災害の防止というものは可能なのです。

無策無為の結果により、労働者とその家族に害をもたらすだけでなく、企業や経済状況にも多大なる打撃を与えます。ILO の試算では、職業性疾病と職場における負傷による直接・間接のコストは、世界中で約 2 兆 8,000 億米ドルに上ります。実に世界の経済生産高の4%に該当します。この純然たる事実、未だ広く認識されておらず、あるいは、忘れられている傾向にあります。このような状況の下、ILO は、あらゆる活動の中で、最重要課題として、労働安全衛生を推進するための自らの責務を新しく構成しつつあります。

労働安全衛生に対する投資により、丈夫で健康な労働者だけでなく、強く健全なビジネスをも創り出すことは明らかです。安全で健康的な職場で働く権利を尊重することは義務である一方、持続的な経済発展の条件でもあります。

ILO は、中災防の労働安全衛生マネジメントシステムガイドラインの開発と広く普及を進める努力を認めており評価しています。そのガイドラインは、本分野における ILO のガイドラインに沿ったものです。実用的で体系的な労働安全衛生の対策を全ての労働者に広げていくこと、しかもそこに、特に、最も脆弱で不利な立場にいる人々を含めていくことは、本当に必要なことなのです。

企業に総合的な労働安全衛生サービスを提供するに当たり、中災防は、特に、安全衛生分野の人づくり面で、使用者を支援してきました。ILO にとりましては、自らの技術協力活動において、中災防と連携関係にあることは大変光栄なことです。また、ILO の労働安全衛生マネジメントシステムガイドラインの普及のための中災防の活動と当該ガイドラインを踏まえた中災防のマネジメントシステム認証事業の発展は、この連携関係からもたらされています。

中災防の活動は、本当に、世界の他地域を勇気づけ、鼓舞するものです。私どもは、中災防の弛まぬリーダーシップに期待しております。

日本の国際協調の伝統にならって、私は、自国の基準を引き上げたいと熱望している国々と中災防の労働安全衛生の経験を共有するために、私どもが、中災防とともに活動できることについて、希望しこれを強く信じております。

加えて、本日お集まりの皆様方に対して、労働関連の負傷や職業性疾病を防止するという、重要な日々のお仕事を継続して取り組まれていらっしゃるということについて、感謝申し上げたいと存じます。

本日の大会により、皆様方が、重要な知識と情報を共有されるとともに、私たちの共通目標、全ての人々にとって安全で健康的な仕事を実現すること、に向けて一致団結して対応していくという責務を新たな形で果たされるものと確信しております。